

農村の未来図：位置情報ゲームを利用した農村地域の振興 Promotion of rural areas with a location-based game: a vision of rural areas

○小島悠揮^{1,2}, 乃田啓吾^{1,3}

Yuki KOJIMA, Keigo NODA

1. はじめに

岐阜県内の農村地域には、観光ブック等では見つけることができない隠れた観光資源が豊富に存在している。例えば棚田やため池などの農村を代表する風景の他に、アユやライチョウなどの希少動植物、そしてダムや小水力発電所など農業土木施設などは観光資源としての潜在的な価値が高い。しかし、岐阜市や岐阜県に隣接する愛知県など都市部の住民にはその存在が十分に知られていない現状がある。このような隠れた観光資源をうまく利用すれば、都市部から農村地域への訪問者、即ち交流人口を増やすことができ、その結果農村地域とその経済を活性化できる可能性がある。そのためのツールとして Pokémon Go やドラゴンクエストウォークなどに代表される位置情報ゲームに注目し、位置情報ゲームの活用によって都市部と農村地域が接続され、農村が振興される未来図を描いた。

2. 位置情報ゲームによる地域振興の仕組み

位置情報ゲームとは、観光資源等の特徴的な場所を地図上に表示し、実際に訪問するとゲーム上で報酬を得られ、そして報酬の収集もしくはキャラクターの成長を楽しむシステムである。これを利用し、岐阜県内の隠れた観光資源を地図上に配置し、実際に利用者が観光資源に行くことで報酬を得るゲームアプリを開発する。観光資源情報は農村地域の住民や農業土木施設管理者らによって提供されることを想定している。報酬を得た利用者は、岐阜県内の魅力を認知できるとともに、次の報酬を得るために他の観光資源へも足を運ぶことが予想される。農都市部からの訪問者の増加は農村地域の住民や施設管理者にとって、より魅力的な情報や環境を提供するモチベーションとなり、更に多くの都市部住民の訪問を招くという、正のスパイラルが発生する。これにより、農業農村地域が活性化がさらに飛躍的に促進されると考えられる。このようなスパイラルが成立すると、都市部と農村部の経済が接続され、将来的には政府が推し進める対流型首都圏の東海モデルが岐阜県を中心に形成され、農村地域の持続性が構築される。ただし、このようなコンセプトを実現するためには農村地域のネットワーク環境の整備が不可欠である。

3. 専門家らとの意見交換会の実施

今回提案する仕組みの実現には、様々な課題があると考えられる。例えば、位置情報ゲームは魅力的なコンセプト、システム、デザインが伴わなければ利用者が増えず、普及しない。そ

1. 岐阜大学地域環境変動適応研究センター Regional Adaptation Research Center, Gifu University

2. 岐阜大学工学部 Faculty of Engineering, Gifu University

3. 岐阜大学応用生物科学部 Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University

キーワード：農村振興、位置情報ゲーム、未来図

位置情報ゲームを利用した農村地域の振興

岐阜県の豊富な未発掘観光資源を活用し、位置情報ゲームを利用して都市部からの観光客を増やす



上記コンセプト実現への課題：魅力的かつ持続可能な位置情報ゲームの開発が必要
利用者層は誰？ 報酬は何？ 教材としての利用は？ etc..
 農学系と工学系の学生らによる合同ワークショップで議論する

図1 作成された未来図

ここで、岐阜大学地域環境変動適応研究センターの教員と、実際にスマートフォンアプリの開発を行っている専門家らとの意見交換会を実施した。意見交換会では、持続的なゲーム開発のために収益を得る仕組みが重要であること、情報提供者の確保と充実が重要であること、地域振興の具体性などが議論された。収益性の問題については、教材として小中学校での利用なども解決策として考えられる。情報提供者については、行政との連携によって解決できる可能性があり、居住者の情報提供以外にも行政が持つ観光資源情報を提供してもらうことが考えられる。それに対し、ゲーム上での都市部住民の移動パターンを大学が解析し、県、市町に提供することで、行政はより適切な農村地域への振興支援を実施することが可能となるため、相互に利益のあるシステムを構築できる。また、様々な機関や個人が持つ観光資源情報をデータベース化することが重要であり、これは地方大学が担うべき重要な役割である。また、地域振興の具体性について、道の駅との連携など、経済的な効果が分かりやすいものがあると良いことが指摘された。

4. おわりに

意見交換会の議論内容を踏まえ、図1に示される未来図を作成した。都市部住民、農村地域の住民、行政の3者を位置情報ゲームで繋ぐコンセプトと共に、地方大学としての岐阜大学の役割を明確に示した。未来図の実現には未だ多くの課題があるが、柔軟で多角的なアイデアを抽出し、より良いコンセプトを構築するために岐阜大学の農業土木系および社会基盤工学系の学生らの合同ワーキンググループを立ち上げ、今後議論を継続する。

【謝辞】本課題は農業農村工学会・農業農村情報研究部会「農業農村地域における情報利活用の未来図」の補助を受けた。